

令和5年度

南ヶ丘小だより

Newsletter from Minamigaoka

校訓 心をみがき 体をきたえ 夢を大きく

学校教育目標 郷土に誇りを持ち 未来を拓く

心豊かな子どもの育成 (合志中校区共通目標)

令和5年7月20日 第10号 文責 澤田

前期前半を終了します。

4月から70日間の学校生活を続けてきましたが、ここで38日間の夏休みをはさみ、後半のための準備期間とします。振り返ってみれば、5月にコロナウイルス感染予防対策が大きく変わり、一気に時間が加速したように感じています。時間の流れは速く感じつつも、体や心がそのスピードに追いつけず、少し無理をしたこともあったのではないのでしょうか。

児童の様子を見ていると、めまぐるしい日々の中でも笑顔で遊ぶ姿がありました。上級生と下級生が交流することも3年ぶりでしたから、上級生としての意識や行動が大きく変化し成長し、現在も進行中です。とても頼りがいがある上級生に育っています。

学習面では、教科によっては苦手意識があり、苦戦しつつも挑戦している姿がありました。毎日の家庭学習もご家庭の協力により学習習慣が身に付いた児童は、生活リズムも定着してきました。

人権学習では、困ったときに支えてくれた友達のことを発表する低学年の姿がありました。高学年では、ハンセン病や水俣病について、病気そのものについて正しく知るとともに、それを理由に自分や家族が周囲から受けたつらい経験についても学んでいきました。

三者面談では、大変暑い中においていただいたことにまずもって感謝します。十分な時間ではなかったかも知れませんが、子どもをはさんで担任と保護者とお話することはとても重要と考えます。これを機に、今後ますますお互いに協力して大事なお子さんを育ててまいります。

アフリカのことわざに「1人の子どもを育てるには100人の大人が必要だ」とあるように、児童を社会人にまで育てるには、保護者と学校関係者と地域の方など、多くの協力者が必要です。核家族化が進む中であっては、親以外の大人と話すことを苦手とする子どもや、相手が一人であれば話を続けることはできても、相手が複数になると、話の続け方が分からなくて会話が苦手という子どもがいます。それは、経験が少ないことが理由の一つに挙げられます。長期の休み期間中には、多くの大人や子どもとふれあえる経験の場を増やしていただくとうれしいです。友達作りのコツを自然に身に付けられるかも知れません。

最もお願いしたいことは、健康と安全です。まずは保護者の皆様のご健康と安全、そして、お子さんの健康と安全を願っております。また、SNS等で他人と知り合いになれる気軽さからくる危険性やゲームの課金等、現代の保護者は非常に心配することが多くご苦労されていると思います。夏休み期間中も、私たち職員は出勤します。何かありましたら学校にご連絡をお願いします。

※8月10日(木)～16日(水)は、学校は閉庁ですので、緊急時は警察または、学校教育課にご連絡いただきますようご理解とご協力をお願いします。

お兄さん、お姉さんになってますね。

楽しみながら学んでいたプールも終わりました。最後のプールの時間に6年生が1年生と一緒にプールで過ごしました。日頃は大プールに入らない1年生ですが、6年生といっしょなら安心です。6年生は1年生に手助けしながら、活動をしていました。見学をしていた6年生が、「あー、プールに入りたかった」と、残念そうでした。妹や弟がいない6年生も立派なお兄さんお姉さんになっていましたし、1年生にとっては、学校でたっぷり甘えられて安心して泳いでいました。たての学年交流は今後もさまざまな場面で取組を進めます。



おんぶに

だっこ